

「中小企業共通EDI」 Zoom体験セミナー

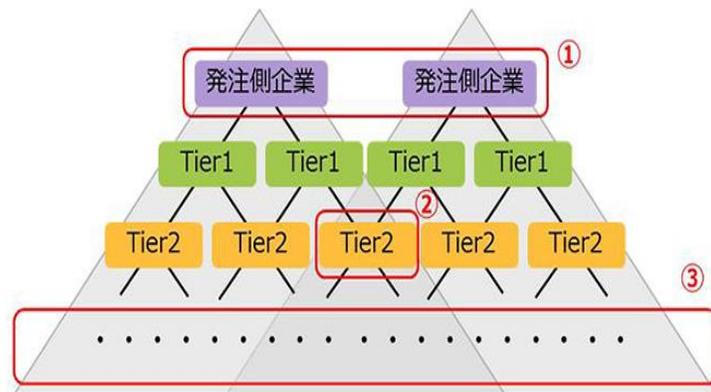
～SMB受発注革命！ 中小企業共通EDI」活用オンラインワークショップ企画～

ITCわかやま ITコーディネータ
共通EDI推進サポータ 辻本泰雄

2020年4月

中小企業の受発注業務は問題だ！

中小企業の受発注業務の現状



① 発注側企業が独自にシステムを構築

→業界EDIが相互に繋がらない

② 受注側企業は発注側企業ごとの複数のシステムを導入

→取引先ごとにシステムが異なるため、多画面（多システム）を使用しなければならず非効率的

③ 中小企業は電話・FAXによるやり取りのまま

→転記ミス、入力ミス、書類の紛失等トラブルが発生

中小企業のEDIの問題点

① 【Tier1】（1次請け）

- 費用負担の大きい業界VANを利用。
- 取引量が多いので業界VANを使わされている。
- 回線スピードは、遅い I S D N である、2024年1月サービス終了。

② 【Tier2】（2次請け）

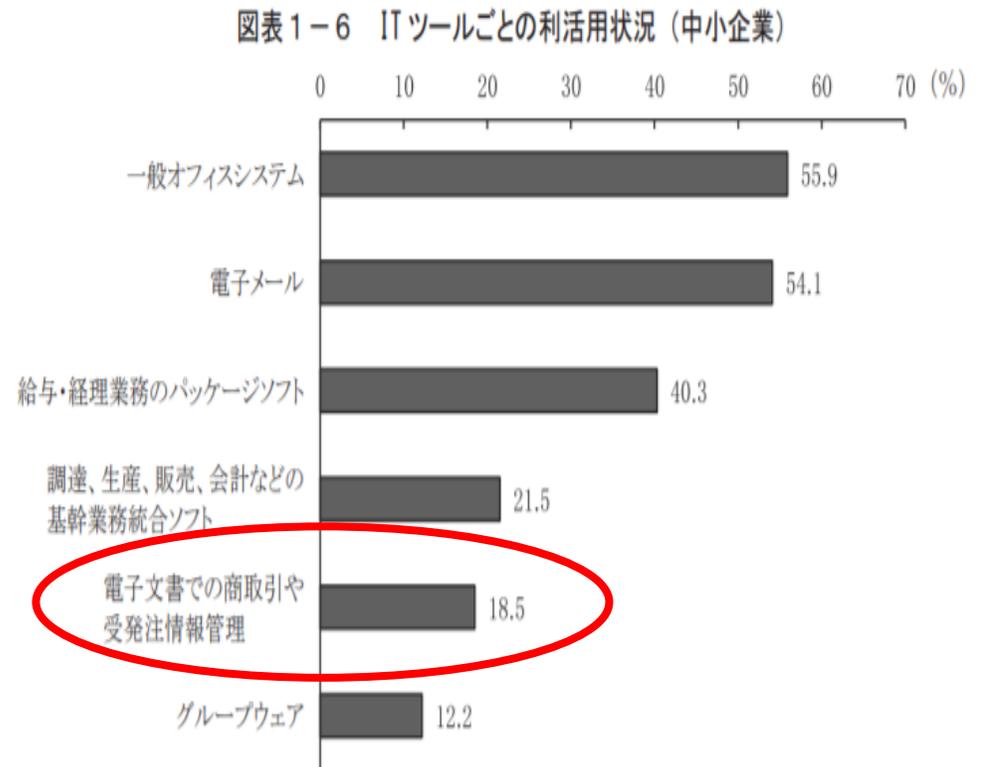
- W e b - E D I は、ブラウザでの利用も可能であるが特定取引先ごと多画面入力が必要。

③ 【Tier3】（3次請け）

- システムから注文データ等を印刷して F A X している。
- 企業ごとに異なるフォーマットの注文書や納品書の作成や郵送などの手間がかかる。
- 自社システムへの手入力作業
- 受発注データは、C S V なりにダウンロードして取り込む手動操作をすることが多い。
- 企業間受発注EDIを推進したくとも社内にEDIに通じた人材がいない。
- 企業内だけでなく、社外の取引先と交渉できる人材がいない。
- 受発注業務において無駄なIT投資をしないように相談できる所が無い（RPA、AI-OCRなどベンダーの提案を検証できない）
- EDIの要求仕様書の作成ができない。
- I T 経営を推進できる人材が社内にはいない。（I T 経営とは、I T を戦略的に使いこなし、競争力や生産性の向上を実現し、経営力アップすること。）

中小企業の受発注業務は、IT化が進んでいない！（電話やFAXなどやり取りをしている）

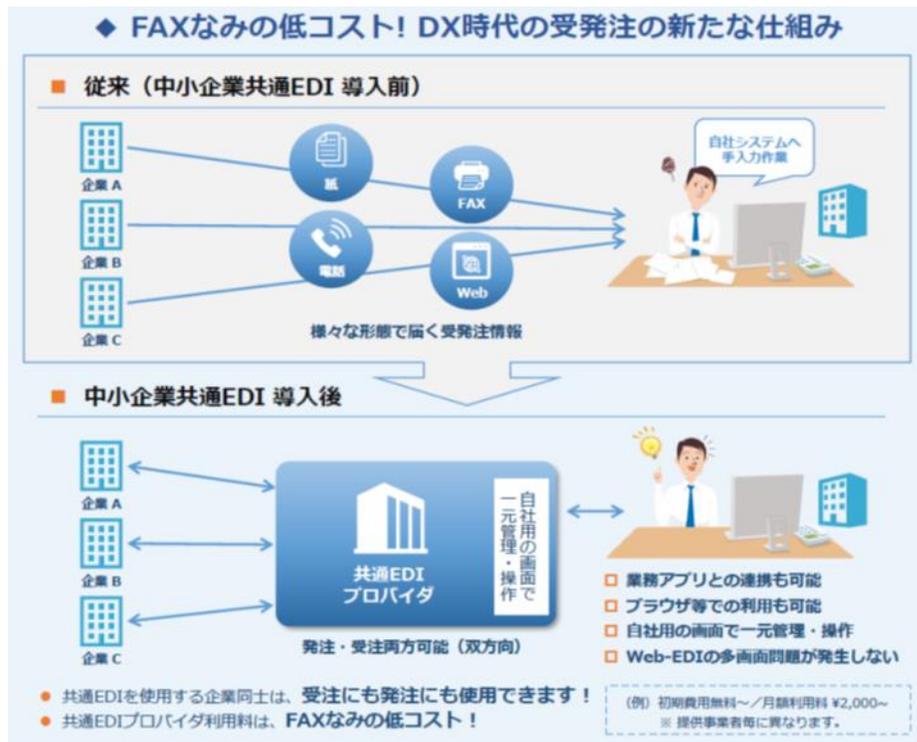
- 日本公庫総研レポート「中小商業・サービス業におけるIT利活用の現状と課題」（No.2018-3、日本政策金融公庫総合研究所）によると、中小企業におけるITツールごとの利活用状況は、一般オフィスシステムや電子メールが55%前後、給与・経理業務のパッケージソフトでは約40%の企業で利用されている一方で、「電子文書での商取引や受発注情報管理」では18.5%と、2割を下回る結果となりました。
- これは、大半の中小企業では、受発注業務のIT化が進んでおらず、電話やFAXなどの従来の方でやり取りをしていることを示す結果です。



資料：公益財団法人全国中小企業取引振興協会「規模別・業種別の中小企業の経営課題に関する調査」（2016年）

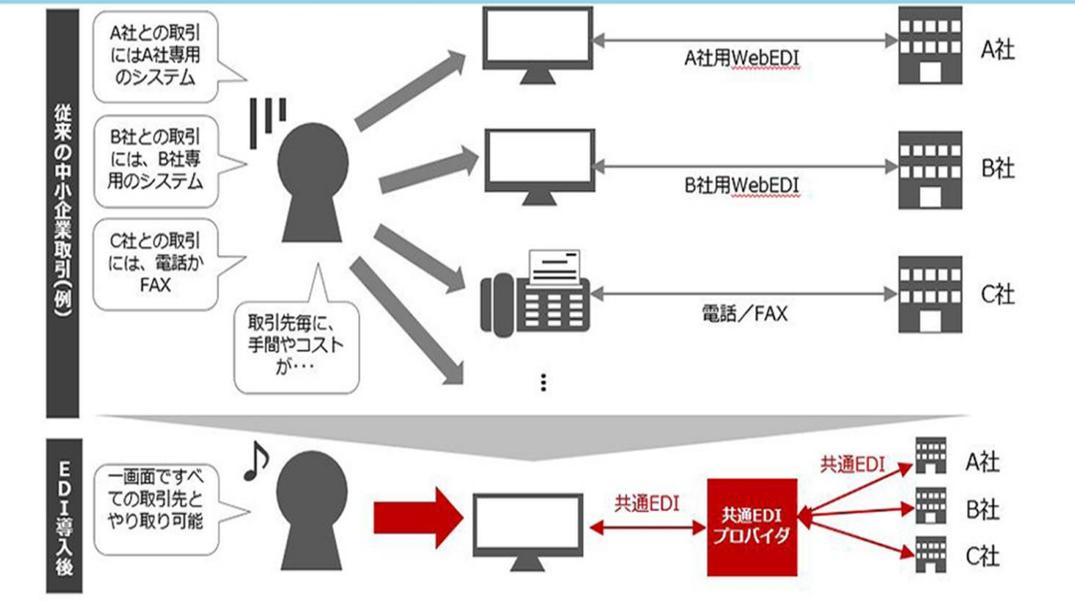
新たな仕組み『中小企業共通EDI』導入のメリットについて

新たな仕組み！



中小企業共通EDI導入メリット！

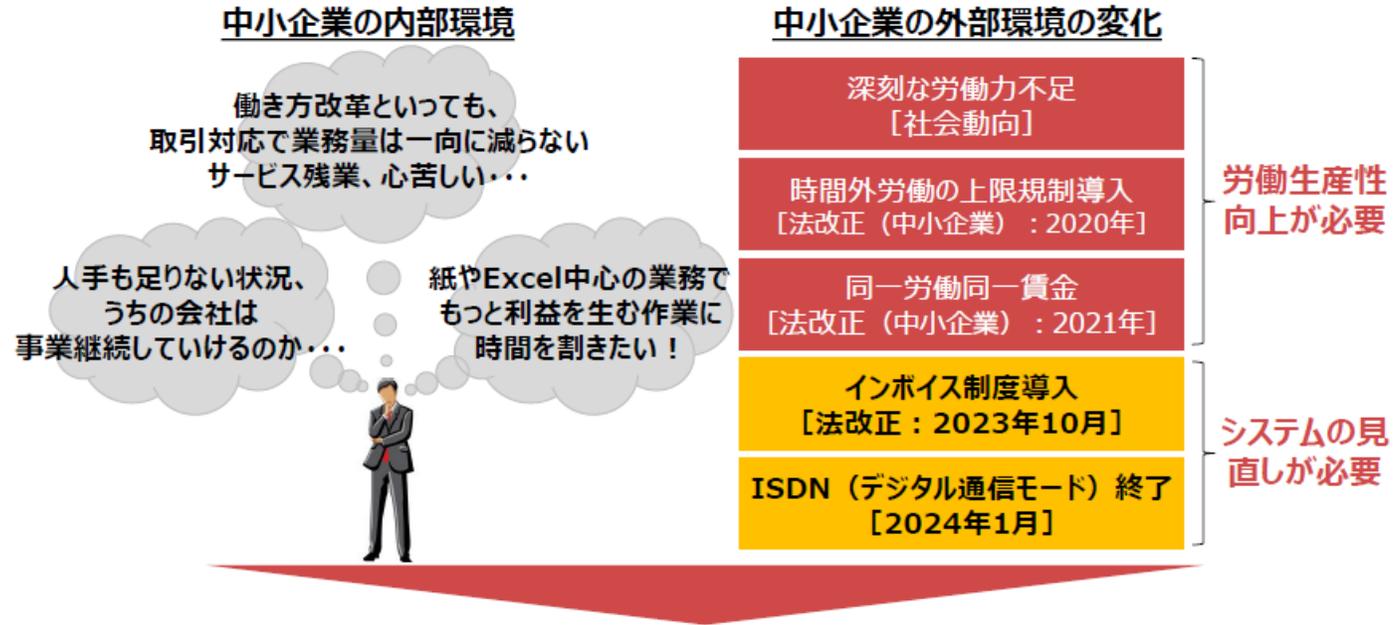
取引先ごとに用意していた専用端末や用紙が不要となり、山積みになっていた伝票をデータで一元的に管理できるようになることで、①業務効率アップでコスト削減②人的ミスを軽減③過去現在の取引データの検索の簡素化を実現。



中小企業が中小企業共通EDIを導入する 上での課題、問題は何か？

- 取引先がEDIを導入していない企業
 - EDIで取引を行う為には、取引先の企業もEDIを導入していることが前提となります。
- EDIでの取引が少ない企業
 - EDIでの取引が少ない企業の場合は、費用対効果が感じられないことが多いです。
- 従来のEDIを利用している企業
 - 2024年の1月に固定電話回線網からIP網への移行がなされるため、従来のEDIを利用している企業では、インターネット回線を活用するWEB-EDIへの移行が必要になる
 - 独自のWEB-EDIシステムでなら多画面問題が発生する
- 人材不足のなかで、IT人材は特に不在である。
 - ITツールの評価が十分にできない。
 - ITツールの説明ができない。
 - EDI設定（マッピング）できない。
 - 非効率な無駄なIT投資を無くせる人材がいらない。
- 導入コストが問題。

中小企業の内部環境と外部環境の変化



- 人手に頼った対応は限界
- 個々の企業だけでは解決が困難
- 自社は困っていないから良いとはいってられない (部分最適化)
- **企業間に目を向けた受発注業務の改革が解決のカギ！ (全体最適化)**

人材不足を「企業間受発注業務改革」で乗り越えよう！

『中小企業共通EDI』導入フェーズごとの支援内容

EDI導入フェーズ	1. 導入検討	2. 要件定義	3. 調達・導入	4. 運用・評価・改善
支援内容	(1) 相談対応 <ul style="list-style-type: none"> 相談企業の共通EDIの理解 相談内容と共通EDIの適合性確認 (2) 現状分析・目的設定 <ul style="list-style-type: none"> 企業の現状把握 課題整理とEDI導入目的の明確化 (3) 基本計画・実施決定 <ul style="list-style-type: none"> EDI化の範囲の検討 導入形態の検討 連携取引先（候補）の調整 基本計画策定とEDI化決定 	(1) EDI主要要件定義 <ul style="list-style-type: none"> 業務要件・取引ルールの定義 メッセージ要件の定義 機能要件・システム構成の定義 (2) 一般要件・個別要件定義 <ul style="list-style-type: none"> システムや業務アプリに必要な要件の定義 非機能要件 	(1) 調達 <ul style="list-style-type: none"> 調達対象システムの確定 調達先の選定 (2) 導入 <ul style="list-style-type: none"> 開発・構築 接続試験・運用試験 稼働・本番移行 	(1) 運用 <ul style="list-style-type: none"> 運用管理 障害対応 (2) 評価・改善 <ul style="list-style-type: none"> モニタリングおよび評価・分析 改善計画・実施

【1. 導入検討】については、Zoom気付きセミナー受講後ヒアリングシート提出いただき、当方にて導入検討し提案いたします。

また、後ろの工程（【2. 要件定義】 【3. 調達・導入】 【4. 運用・評価・改善】）については、Zoom体験セミナー受講勸奨や見積の上、有償にて対応する。但し、原則、オンラインサポートとする。更に、有償費用の軽減策として助成金・補助金の活用を紹介いたします。

※IT人材不在などの中小企業様に、ITコーディネータが共通EDI導入・支援・育成・代行および導入コスト削減策を紹介いたします。

協力してほしいこと

(簡単)

- 共通EDIヒアリングシートの回答に協力願います。

(普通)

- EDI化の効果を最大化する活用方法など提案の機会をください。
- 共通EDIヒアリングシートに回答いただける取引先紹介。

(少しわがまま)

- 『中小企業共通EDI』の模擬マッピングのための注文データのヒアリングをさせてくれる時間と取引先紹介。
- EDI導入推進者向け勉強会（取引先含む）の時間の確保。
(オンラインワークショップ形式採用)